

環境基本方針

私たちは、環境保全活動のより一層の推進を図るため、ISO14001 (環境管理) システムを取り入れ、以下の基本方針に基づいて環境パフォーマンスの継続的改善を実施します。この環境基本方針は、全ての事業所に適用されます。サステナビリティ推進委員会の指示・監督のもと毎年見直しを行います。

① 製品の全ライフサイクルへの配慮

調達から開発、製造、販売、流通、使用、最終消費、廃棄に至る全過程において、環境の保全と安全の確保に配慮し、持続可能な社会と環境の実現に貢献します。

② 環境に配慮した操業

事業活動におけるCO₂、産業廃棄物、水セキュリティ、大気汚染等の環境リスクを特定し、その発生の予防に努めると共に、リスクを最小限に抑える管理体制を構築し、社員や地域住民の安全と健康を守ります。

③ 省資源・省エネルギー

製品の企画段階から、省資源・省エネルギーや廃棄物の削減等

に配慮した技術の開発に努めるとともに、生産活動において、資源やエネルギーの一層の効率的な使用や再利用に努めます。

④ 環境関連法規の順守

環境関連の法律、法令、規則、条例、協定などを順守することは勿論のこと、必要な事項についてはより厳しい自主基準を制定して継続的改善に努めます。

⑤ ステークホルダーとのコミュニケーション

統合報告書などを利用して環境情報を積極的にステークホルダーに公開し、コミュニケーションの向上を図ります。

制定 2025年3月27日

環境負荷低減の取り組み

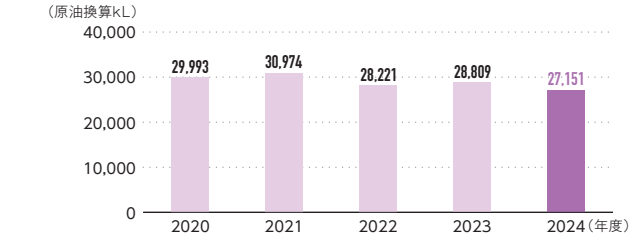
世界で深刻化している環境問題とサステナビリティ経営の推進を踏まえ、省エネルギー活動、資源の有効利用、および環境負荷物質の排出削減活動に継続して取り組みます。

環境保全

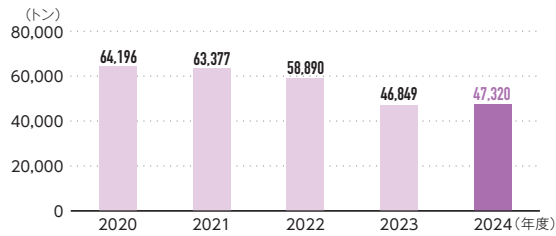
●省エネへの取り組み

2024年度は省エネ活動に取り組みながら稼働率を維持したことで、エネルギー使用量は前年度と比較してやや減少しました。また、CO₂排出量は2023年度より導入した再生可能エネルギーの効果で以前に比べ減少しています。今後もエネルギー利用設備の自主点検、自主診断、省エネ提案の実施など、こまめな省エネの積み重ねを継続し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みも進めてまいります。

■エネルギー使用量



■CO₂排出量



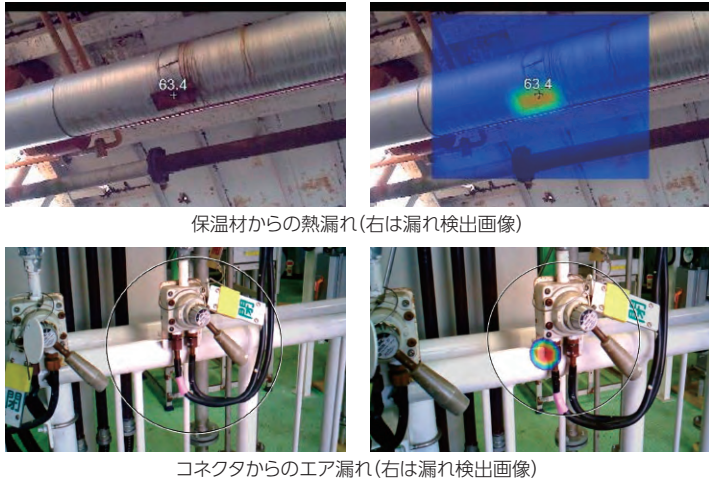
※ 温対法に基づいて算定

■省エネ活動 福島第二工場

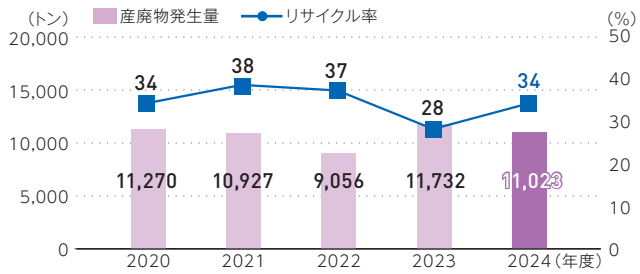
福島第二工場の省エネ点検では、蒸気配管や反応容器保温材からの熱漏れはサーモカメラを用い、生産現場で使用する圧縮空気や圧縮窒素の漏れは画像式エア漏れ測定器を用い可視化しています。省エネ委員会での定期的なパトロールにより熱漏れやエア漏れが判明した場合は、是正工事を行い、漏れを阻止しています。日々の管理のほかに専門業者による省エネ診断やエアコン室外機の洗浄を行い、省エネの推進を心掛けています。

●産業廃棄物削減

産業廃棄物の排出量削減に努めるとともに廃棄物の処分が適正に行われるように管理を徹底していきます。



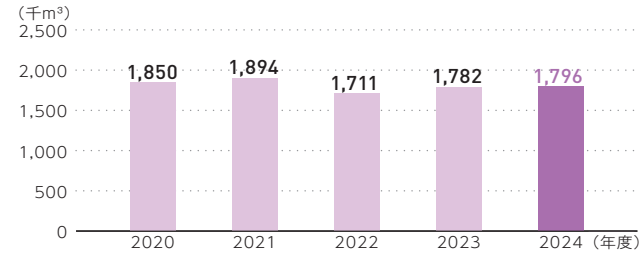
■発生量、有効利用率推移



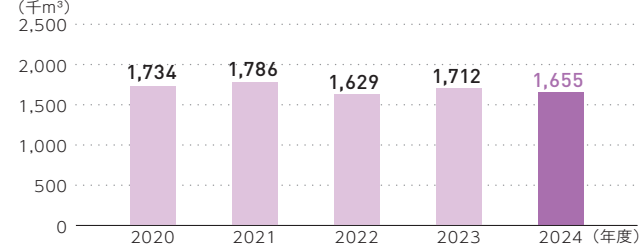
●水セキュリティ関連

各事業所の製造プロセスにおいて、水蒸気、冷却水、洗浄用途に多量の淡水を使用しており、水源および周辺環境への影響を考慮すべきと考えます。そのため、取水量を減らすための循環システムを構築し、従業員に節水を喚起するなど、水使用量の削減と効率的利用を推進します。

■水使用量



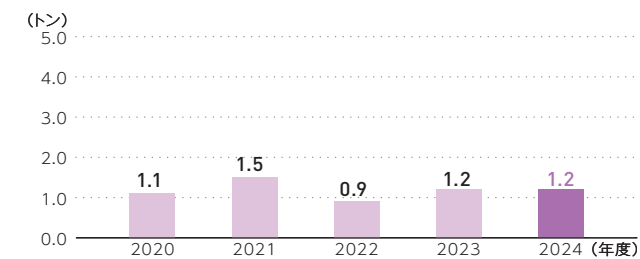
■水排出量



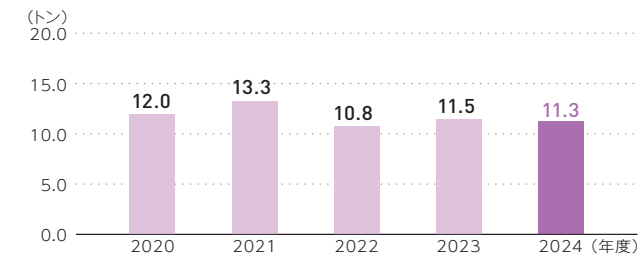
●大気汚染物質排出量削減

定期的なモニタリングで法規制および地元自治体との協定値の遵守を確認しています。今後も燃料転換を行うなど、排出量の削減を推進します。

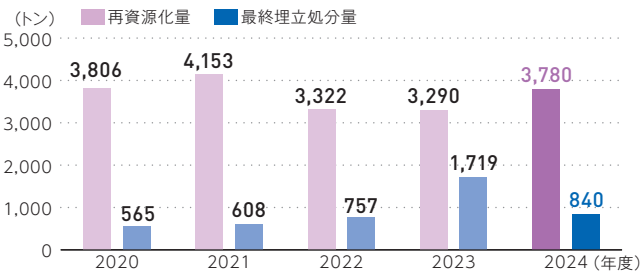
■SOx排出量



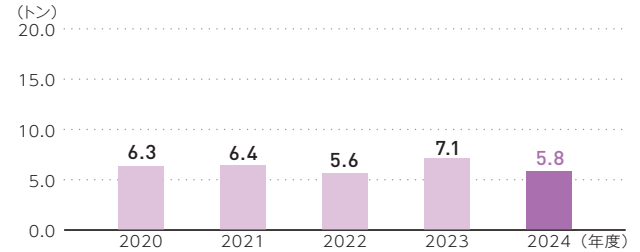
■NOx排出量



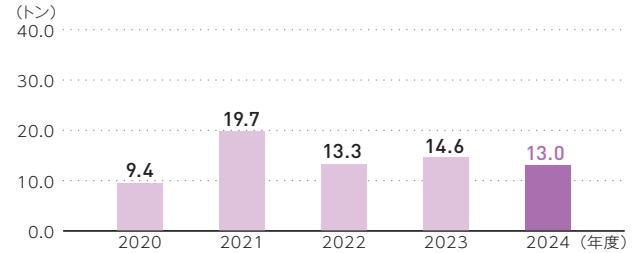
■再資源化量、最終埋立処分量



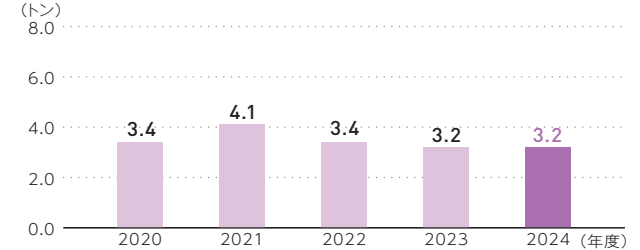
■COD排出量



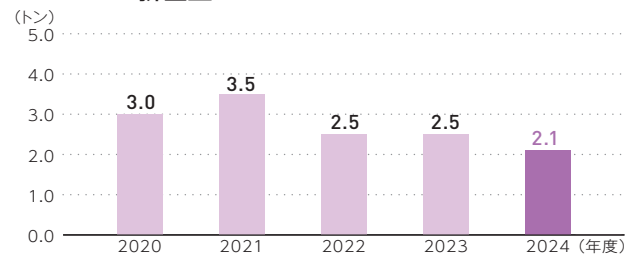
■全窒素排出量



■全りん排出量



■ばいじん排出量



●化学物質排出量削減

「特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律(PRTR制度)」の届出対象物質の排出量を下表に示します。

■PRTR対象物質排出量

排出量(トン)	2020	2021	2022	2023	2024
大気	6.0	5.7	4.2	1.7	1.5
水域	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
計	6.1	5.7	4.3	1.8	1.5